



関ヶ原軍記

初編 十一

九二

へ遠13
2207
11



徳川十五代記 編

春雨文庫 編 藤野權三代記全部十五冊

近世記聞 編 明治太平記 全

開明 小説 鳥追於松實録 五十 大尾

肥長 鹿兒嶋士傳 編

珍説 夜嵐實記 全

近世 小倉青木實記 全部 近日常来

近世 松村春輔著 櫻田實録 全

近世 徳川家の旗本青木弥太郎小倉藩長吉昌松枝張ひ等春情事寄 暴借強談の悪事主目本の奥方艱難心苦と記し實録の及紙 綴りたれ近世の珍書なり

書物 繪入 貸本所

東京牛込細工町 誠光堂 池田屋清吉謹白



関ヶ原軍記初篇卷之廿壹

目録

一直江兼雄返書手切の事

并 神君 上杉退討所評定

の事

一井仔重政大言加茂嘉明といふ

の事

特 13 遠 門 2207 11

并夜臺高虎忠言と述る事

池清

関ヶ原軍記初編卷之廿七

直江氏純返書手切レの事

并 家康公 上杉景勝討伐

評定の事



去程小菅光忠を以て使僧を
伴ふ事其の友人を急ぎ金澤
より下りて書状を以て出さん

とまゝ文云ふ曰く

書れを以て中へいそ方と
拙僧も多年此好所聚止
疑く後く世への風うん
成知止子万々なるやう
る以洋容あらに朽あくる
公私の大幸是くもいふ
一太閤秀吉公由地界以後幾程

も明く教通の紙沱文を及
古よ流さん中綱言及水
洛延のゆるゆる初年此中
及成茂うーのうー南
中綱言及末代よりく
律及れ名をうーるひま
る勿疎るくいふる由上洛
有て流るべきうていふ名い

一 内府公の内府なる人
は皮を剥ぎて新地
を造りて七は道場なり
山河を造りて法華（根来）
を造りてと造られし中
時平は女の中公女と稱
人ト武目と破り内合致の
以用は是より由初まは對

一 して逆居の侍中綱玄度
より似合ざる事お
内府公よりお
明年以後事の内に朝鮮は
以人殺を造りて是より評定
ヶ振の侍お候も是より對
中綱玄度より造る
造りて子万も入るは在る

有世^{ありよ}の風^{ふう}止^やと雖^なく人
加^か判^{はん}宰相^{さうしやう}度^ども平^{へい}伏^{ふく}是^{こゝ}未^ま
の頃^{ころ}初^{はつ}年^{ねん}の^し上^{うへ}程^{ほど}令^い中^{ちゆう}納^{なつ}
言^い度^ども静^{しやう}澄^{じやう}然^{ぜん}く^らん^んさ
以^も妙^{みやう}法^{ぽう}是^{こゝ}多^たく^くと^とあ^ある^る
を^を以^もて^て身^み子^し万^{まん}に
内^{ない}府^ふ公^{こう}の^の所^{しよ}内^{ない}と^と何^{なん}の^の事^じ
如^{ごと}く^くや^やと^とい^い上^{うへ}

慶長六年三月又日

秀先寺元長を

恵^え江^え山^{さん}城^{じやう}を^を候^{こう}

右^{みぎ}の書^{しよ}状^{じやう}を^を急^{いそ}張^{ちやう}に^にお^お候^{こう}して
猶^{なほ}又^{また}上^{うへ}も^もた^たく^く福^{ふく}使^しの^の
妙^{みやう}法^{ぽう}を^をめ^めつ^つく^く一^{いっ}日^{にち}追^お及^{じやう}を^を候^{こう}て
山^{さん}城^{じやう}も^も様^{よう}々^{ざう}々^{ざう}容^{よう}意^いして^{して}は^はし^しふ
い^い危^き角^{かく}の^のり^りと^とな^なや^やさ^さべ^べて

返^こ書^{しよ}とお返^{かへ}し^しる^るあ^あ友^{とも}は
予^よも^も海^{かい}坂^{さか}し^しる^る車^{くるま}江^えか^か返^{かへ}れ^れと^と先^{まづ}
し^しる^る文^{ぶん}面^{めん}し^しる^る

以^も細^こ書^{しよ}披^ひ見^みせ^せし^しる^るあ^あ友^{とも}は
拙^{ちやう}者^やと^と多^た年^{ねん}に^に好^{こう}所^{しよ}と^とあ^ある^る
ら^られ^れ以^も志^しの^の後^ごと^とあ^ある^る
以^もく^く旧^{きう}友^{ゆう}の^の以^も報^{ほう}志^し筆^{ひつ}紙^しを^を
そ^そし^しる^る以^もく^く以^も去^きる^るが^がし^しる^る上^{うへ}に^に

冥^{めい}東^{とう}福^{ふく}を^をく^く以^も故^こと^と下^{した}を^を
浮^う沈^{しん}止^{とど}難^{がた}く^く知^しれ^れば^ば下^{した}と^とあ^ある^る
新^{しん}説^{せつ}と^と天^{てん}下^かの^の以^も妙^{めう}法^{ぽう}と^とあ^ある^る
及^{およ}び^びや^やる^る事^{こと}

一^{いっ}系^{けい}係^{けい}上^{じやう}流^{りゆう}返^{かへ}し^しる^るあ^あ友^{とも}は
以^も不^ふ審^{しん}の^の返^{かへ}
内^{ない}府^ふ公^{こう}の^のあ^ある^る以^も心^{しん}の^の返^{かへ}く^く以^も
去^きん^ん又^{また}月^{げつ}今^{いま}津^つ一^{いっ}下^{した}り^り以^も妙^{めう}法^{ぽう}の^の

仕^し至^き中^{ちゆう}身^み少^{せう}方^{ほう}もあつ^く太^{たい}
閼^{くわん}内^{ない}地^ち界^{かい}之^の既^きに秀^{しう}吉^{きち}公^{こう}以^{もつ}在^あ
世^{せい}の時^{とき}に三^{さん}ヶ年^{ねん}在^あ玉^{ぎよ}比^ひ順^{じゆん}
禰^ねりりり^り今^{いま}更^{さら}お遠^{とほ}五^ご
だ^うに又^{また}中^{ちゆう}將^{しやう}度^どにち皆^{みな}う
ざら^らの順^{じゆん}教^{きやう}通^{つう}の紀^き流^{りゅう}文^{ぶん}武^ぶ
仕^しり^りち^ち南^{なん}方^{ほう}忘^{わす}却^{せき}是^{こゝ}ろ^ろ
い^いち^ち順^{じゆん}志^し

内府公の内

心^{こゝろ}底^{てい}に^にあ^ある^るさ^さに^にあ^ある^るぞん^{ぞん}ど^どに
只^{ただ}今^{いま}の世^よに一^{いつ}統^{とう}に不^ふ審^{しん}武^ぶ
に^にあ^ある^る時^{とき}に^にあ^ある^るよ^よに^にあ^ある^る系^{けい}統^{とう}
是^{こゝ}長^{なが}に上^{かみ}洛^{らく}仕^しり^りち^ち末^{まつ}代^{だい}迄^{いた}
も^も律^{りつ}義^ぎの急^{きふ}武^ぶ失^{しつ}ち^ちあ^あひ^ひや^や
る^るよ^よの系^{けい}統^{とう}に^にあ^ある^る洛^{らく}に^にあ^ある^る者^{もの}
を^を洛^{らく}に^にあ^ある^る内^{ない}に^にあ^ある^る者^{もの}
上^{かみ}洛^{らく}に^にあ^ある^る者^{もの}

一 此度新^{ちん}城^{せう}なるまの^まの^の公^{こう}也^{なり}
お伺^{うかが}ひ入^い車^{くるま}の^の中^{なかつ}に^に戦^{いくさ}
ありく仕^し度^ど年^{ねん}忽^{たち}に^に妙^{めう}法^{ぽう}
いふて是^{こゝ}ろ^ろに^にゆ^ゆる

一 今^{いま}津^つ七^{しち}口^{こう}道^{みち}橋^{はし}修^{しゆ}神^{かみ}の^の事^{こと}
いそ又^{また}後^{あと}者^{もの}中^{なかつ}に^に仍^{なお}く
つる^{つる}子^こん^ん得^えく^くの^の柵^{さく}多^た勢^{せい}
送^{まわ}ん^ん決^{けつ}企^きく^く天^{てん}下^かに^に徳^{とく}軍^{ぐん}勢^{せい}

戦^{いくさ}引^ひ交^{かう}合^{ごう}鉄^{てつ}仕^しる^る又^{また}まの^の差^さ恨^{ごん}
よりより七^{しち}口^{こう}の^の道^{みち}戦^{いくさ}塞^{さく}ぎ^ぎ
橋^{はし}を^を切^き断^{だん}し^し今^{いま}く^く新^{しん}城^{せう}
の^の用^{よう}を^を仕^しる^るまの^のと^とま^まの^のつ
都^{みやこ}つて^て送^こ橋^{はし}を^をつ^つり^り往^{むか}来^き
を^を自^{みづか}由^りに^に仕^しる^る是^{こゝ}の^の公^{こう}也^{なり}
近^き玉^{たま}城^{じやう}なる^の智^ち秀^{しゆ}政^{せい}が^がを^を
臣^{おみ}監^{かん}物^{ぶつ}する^るが^が能^{よく}病^{びやう}づ^づる

よりうゑ此より不棄國を
年忽中より取返すの邦
此よりけ老るる城より
道橋等修補仕るゝ國持乃
役目より取中身人南より
後より度回能電書立返上京
仕る条は後以時届け下さる
度くは

一 諸浪人を百集め度より近
本領中増地有る符部
系の侍心二百騎百抱(い)又
武具を急取集めしるゝ云ん
さる所乳明より凡そ武の
の習ひ治せし乱を忘る
也平生より小軍使とあ
る事より急務お急の事

こゝに系家のおうわく
松島に及々花英風流好
み歌舞とむねと
奥州武士と同
く 風と名と
一 唯年明後年のうち
報解 西人教とをいふ

左記むす下れ沙汰とて
左記の胡乱歌の歌
長出さんる歌い

一 子不もいふ
内府公の御妻妻系孫石
抱きて倒り入る
る雪海に仕るる歌い
新 是見歌い

の沙汰とて唐人殺戮
句けとありおろくは
ふ及むる矢の礼義と一
休るべしとありて
は旨お留り候り
唐筆の免状
名と譯と

慶長五年二月廿四日

五江山城守

善光寺長

新ろとて返言は
ととや送ん
義宣も送
はをふおろびり
の以大事と
大坂の丸は
徳大名あ

法役人跡々々番金一てふ校
追討の妙法領あり世せり
出産七しんくゝの毛利
中納言輝元 淳田中納言秀
家 金谷中納言秀秋 堀田左
衛門尉長盛 長束大膳左衛門尉
大谷刑部少輔吉隆 前田徳昌
院玄以 淡那左衛門長福

鴻左衛門左次正則 池田三左衛門
つ尉輝政 如友代後吉清正 尾
田甲斐守長政 如友左衛門前
細川執中守右兵衛 友堂依後
守高虎 田中左衛門少輔吉政 堀
左衛門尉秀政 吉印村木獨坂
秋月本武始りておの
同列より終るに上校と教代田家

て武勇れ大所を功の侍
充満も又佐竹義宣も亦力
まゐる上々天晴ゆ——さゆ大子
ありとてさあ——軍也——
ところろろいうぬ所存りやなり
けん増田長束も一人一同にや
ろろの兎角実束のろろ之素
ぬく
内府公湯出るろく

ていつあやどろむろろろ
ろろ
内府公笑——ろろ
ろろあ人のやどろろ中將及
の政子娘ろろといひ結ろろ実
束れろろろろ人ろろろろ
ろろ
家康強むろろひて
追討——ろろろろろろろろ
おろろろろろろろろろろろろ

奥刻白川口と戦つた事 北背雄り
とつた大難所ありと云ふ所が
柿く被ふる竹垣の難所とや
と云ふる有 時宜上出羽
中しるる近きと云ふは 堀堅
物なりと云ふべし ありとも
このうびに松原入百廿軍名の
必死なりと云ふも 然るは

附録六ヶ敷合戦事 ありと
あり ありと云ふ ありと
堀堅物をと云ふ ありと
いふ雄り柿と云ふ ありと
去りおのりと云ふ ありと
あり ありと云ふ ありと
ありと云ふ ありと云ふ ありと
ありと云ふ ありと云ふ ありと
ありと云ふ ありと云ふ ありと
ありと云ふ ありと云ふ ありと

の人々その物語りと恐怖
て兎角とやら人にもあがり
り

井伊直政大に加茂嘉明といふ
の事

并度堂高虎忠言に述べる事

叔も徳大おも只今極監物が

のうらりと夢くいつとも閑
け一言と發する者あり
内府公卿を應じしに
さして徳大を彼所へ移した
うらやとあはれんやとよ
程今上様あそばさて何程の
りありあるべし又春那時
そ一騎ありても款ぐしも

又き縁おけり左様の六ヶ敷
強新

家康手紙

りの方より下知して中納言と
支能ふて進發と

作せられらに井伴重政をみ
おく脊のぐりもせよ服那り
もせよ至表
能本よりけり中某より
内府公談

本多柳宗との外お尋んで
抑通らんは何やどのうら
るゑき惣として上の方元の戦場
の道のうらん平地れあう所
安東とてあうむらひとて
いひ放ちるゑきとていひく
うりうりこれ編へり大辨に
流将も常氣とて付んが為なり

時^{とき}も加^か度^どた^たる^るも外^{ほか}へ^へ急^{いそ}ぐ
中^{なか}に^に極^{ごく}井^{せい}何^{なん}ど^どの^の丈^{さへ}い^いあ^あ年^{ねん}の^の公^{こう}
衆^{しゆ}あり^いん^んを^を合^あ戦^{せん}の^の中^{なか}に^に唯^{ただ}今^{いま}
れ^れど^どく^く一^{いっ}片^ぺの^のや^やべ^べう^うの^の東^{とう}一^{いっ}
地^ちの^の利^りを^をかん^{かん}ぐ^ぐの^の勝^{しょう}利^りの^の景^{けい}戦^{せん}
ち^ちう^うり^りて^て評^{へい}定^{てい}さ^さる^るの^の処^{ところ}り^り
左^さ指^{さし}す^す精^{せい}武^ぶ老^{ろう}の^の向^{むか}ひ^ひ破^{やぶ}り^りを^を
中^{なか}に^にさん^{さん}り^りと^と加^かへ^へる^る時^{とき}を^を級^{きゅう}

軍^{ぐん}に^に基^{もと}ひ^ひこ^こと^と中^{なか}に^にさ^さる^る世^よに^に女^{にょ}
を^を年^{ねん}を^を武^ぶ常^{じょう}の^の人^{ひと}也^{なり}新^{しん}解^{かい}の^の
戦^{せん}ひ^ひり^り常^{じょう}名^な高^{たか}東^{とう}お^おる^るれ^れを^を
張^{はり}き^き人^{ひと}和^わを^を返^{かへ}す^す人^{ひと}を^を那^な
時^{とき}に^に車^{くるま}政^{せい}を^をか^かへ^へる^るも^も能^よく^くさ^さる^る
上^{うへ}方^{ほう}に^に危^き角^{かく}に^に軍^{ぐん}と^とな^なる^る数^{すう}
あ^あら^らひ^ひな^なる^る中^{なか}に^に心^{こころ}を^を解^{かい}く^く三^{さん}州^{しゅう}
の^のい^いふ^ふの^の破^{やぶ}り^りを^を解^{かい}く^く一^{いっ}夜^やも

仕換ト云ふ事ありといふ
あるも大いなる怒りいふや
井作どのより二遠支州の小せり
合ふの三洲く大いなる掃負
い知るも遠くとりしらん
東政まゝなりと折角
和度どの二を支州の小せり合
とやさる事くも地を又

この東政が働くとも恥しから
是に別婦川執前金ヶ崎三郎
長篠遠別味方ヶ原尾呂小牧
長久手又も勝津陣小田原
証代お申しも故太閤様お手よ
して小牧の致しひり池田勝
へ父子森等と討取り実白秀
次度と追ふらんば又より来

と井俣の赤鬼と異名されり
天晴直政が赤配の紙を上げ
武士の思存を秘伝のまどろひと
してちりふけ亦経病除の
守りもぬりやさん又及度
の大ぜり合とやさうの唐土
れいさのちやまきんぬ
系物語りして小ぜり合せ

之節者の檢さるゝ如度度も
寔是らん玉の流とやりむな
し小唐土も赤明元健あり
者ちんばいゝくゝゝゝゝ
極ち極せんいゝゝゝゝ
ゝゝ時ゝ
は下知有くあ人のせり
合全張のこゝろて何

も骨髄あり然れ共今世
せり合の證あり互ひに豫先
る金津とせしめるなり
味方同士は帰る意なき事
あり赤明の古を語り是れ
中さんさうもやうに
双方と和順さむるなり
いりし時馬よりお極あり

湯陣觸ありこの疾むさう
度堂高虎集へてやう
いこのうび金津の殺向の事
を思ふあがうは見えあつて
然るべし
徳川家代
時あふきの時よりていふ
りし又
内府公時
殺向ありし時

石田三成を討て佐和山より
降参して幼主申お度と保護
と稱し西^紅海^海の諸大名討つ
らひ佐和を討おの^い人^い質^いを
棄ひ伏見の城を攻^あ靡^いけて実
車^{せう}賣^りるべしと諸大
名あるべし兎角このうびる
加茂氏後^いと惣大将として

我々と参りあはれ又
内府公より上方へお
はる諸ありた時々^い必^い定^い規^い定^いと
おめ^いるべしと内意とや
らんば
家康公より
高虎のせつけ実にお活切あり
このうびる方^い終^い初^いとして一^い番
手^い敵^いをあはれとて

徳川家運万々々ひるり勿偏
りめられ際さいの合戦くわくせんありた時ときに居伏ゐふく
せべくば一度戦うべく天下
定まる此利あり

家康同東に下向り給て
石田の一黨おとす時
上洛して一戦せん
戦場を青野ヶ原とて勝利せん

まへに又搦戦し
あつて一戦せん
ふ意有らんば大いなる感
有りける果して雲ヶ原に陣
と成りし勝利と油清

雲ヶ原軍記初篇巻の二拾一終 油清

池清

関ヶ原軍記初篇卷之廿貳

目錄

一 源君は所供の諸將姓名の事

并 源君如及清正は高井校授

代借交の事

一 神君は謀略如及清正は稱譽

の事

并清心 神君の作せし懐ふ事

油清

同ヶ原軍記初篇卷之廿貳

神君は供の統なる姓名の事
并 神君 加茂清正は予并校
授成備文の事

云々云々曰く凡そ又之肉所を
以て云々能く獲るを以てを
又け出さる能く肉所を以て

りたろろをひる中叶日
又軍急乃丈孫とくろる地用
中時を万人の膽をひる又詞
に云くよろく信伏する此理
あり

むろろ唐古後漢のさるる
三玉乃時蜀の劉備玄德の
長坂波の軍に打ちつけて

落去れ時常山の長雲を万
丈不當の英士也ーが三丈
の初至阿斗を助けて程ひ
れ中よりいづれ大敵の国み
と突破りくさせ振けて
題あり玄德は追急する時
玄德見のひいりふや長雲
るふとて追急しーくや

とるまゝあひらふ長雲を
へくまゝ一騎初主と抱き
なり一布大軍と破り急
うつてこゝろちうへに系
はり一が所運目も度は供
中なりうりとして初主と出
いせり玄德則ち初見戦
後名席上り投擲研りも

懐こづもして天下今
定まらば長雲の我先鋒の
軍将よりして供する下を
もちるるんぞ世間一人
智んやものうへひーうバ
け一云ふ依て長雲大ひよ
感懐一々あがつるりみ虎
お軍の中へ入る英名戦

天下に形り——り終る時の
人の一と云ふ後く後と云ふ
る和漢と云ふとお同く去
る内府公とも只此一言ふ
して流人成歸依をせぬ
事を云神妙あり爰に
加えて後く清正と和漢と
秀で——良おあれば小堀と

以て大敵討つ清正の
如きものありと云ふ
爰てい大きく云ふ数人之
その上幼主中將及に二人
相く志保と云ふ大將あり
終るも朝鮮以来石田と云
不和してゆつとも中く
三木と云ふ指揮ありと云

あら人々何んぞの
事かを
以存ありーが清正を忠
烈の臣あらん心えり
間を入もむひーに
い路々
御謀略ー臨入ーり是れ
急々
内府公の
内府公の

均物あり
去程ー御評定一変ーて金澤
へ御進發るべきとお極まる
此後ーろく御借ーろく
下向する迄大名ら相列に浦
ろろにー糧米おとさへ
との 御下知ありめちるん
四月十八日
作あさん

六日七日九日此三日の月くある
まゝめん
丈正則 尾州清洲二万石同く会費
掃部次 一万石池田三左衛門尉輝政
之嘉吉田十六万石同く会費佐中
長吉 一万石此福崎 池田のちあつ
才一乃以先手あり 同陣内西く
より

細川秋中 忠真 丹後国田拾二万石
尾田甲斐守 長政 豊前小倉拾万石
彦左 佐渡守 高虎 伴左衛門 八万石
浅野左衛門 太夫 幸長 甲州谷村 廿万石
田中兵部 太夫 吉政 三河島崎 六万石
堀尾佐濃守 忠氏 遠刈濱 拾二万石
加藤左衛門 忠明 小川 今治 拾万石
増須賀 阿波守 正徳 河別 徳崎 十八万石

山内封馬守

主外丹羽一幸

織田裕美

川遠度

古田仙石

中村別所

城主とらん
部て二十三日
あつて城主とらん
部て二十三日

遠州掛川六万石

筒井生駒

徳永蜀田石

九鬼素山

山内信久

秋山等

小所

虎と被毛六万石人内先手

とて東海道東山石のあ道

より二手に日とて賣下る

叔又内府公の侍候

大坂より居る石賢見結城宰相

秀康の依倉少将と古々

外松平の山一門とび山泉長

れんくく井坪と部と輝

本多中務左衛門 榊原或親太輝
大久保相模守 酒井雅樂次
奥平貞純 志昌 赤松
とて 如瀬 安房 阿部 高力
島居 平岩 内藤 戸田 義派
佐野 赤の 河津 代 大名 伊藤 氏
以 衆人 彼 二万八千人 惣軍
部 合 十万余人 あり きの せり

大谷 刑部 吉盛 河津 氏より
下 向 仕 たり 也 あり たり
この 時 内府 公 の 名 正
より 南 時 必 大坂 あり あり
大名 の 中 一 能 得 者 清 正 一 人
これ あり あり 人 之 部 合 の
軍 取 者 あり 武 勇 あり
双 ぶ あり あり 正

予志づぐひ細曲のめん
紙してゐる合歌六ヶ敷
んくしつ工支ありて既
御發書の前よりて我
清正の侍仕老をとり
作入とらんらんき
大坂より歸りて中
あぐ
家康

をの身あぐ
あつむる辛骨
昨後十日出陣
勿論を少不定
りつと
生死を定め
の名跡
う
き
井

檢校と和曲の名人あれば
うけつゝぬり 却の名状に
足元の条料入るとのあり
清正是と承りなり
安東の事と云ふは清あり
刻ち十日の書付とあり
この井檢校は和曲の元は
なりと云ふにそのなり清心中

く名ひつゝいふは元
あり 徳川氏の御孫
委細なり 實一とあり
とて是なり たり 長

源氏清源略加及清正
源氏清源略加及清正

并 清正悦喜 御謀略的尚の事

既^もり慶長八年六月十日の宵^よ
より物^{もの}を^しお^もく^し酒^{さけ}を^しり
又^{また}彼^かを^し双^{ふた}び^にあ^いに秘^ひ曲^{まが}の達^{たつ}
人^{ひと}を^しり^しのせ^し 御^ご前^{まへ}を^し
沸^わ老^ら中^{ちゆう}本^{ほん}多^た依^い後^ごを^し 大^{だい}久^{きう}保^ほ
お^お授^{さづ}ち^この^のあ^あ人^{ひと}を^しり^しを^しり^しの^の近^{きん}
を^をる^るを^をび^びと^と林^{りん}道^{どう}を^を 傳^{でん}長^{ちやう}を^を
ち^ちと^と無^むを^をく^く酒^{さけ}を^をん^んあり

ち^ちと^とに 内^{ない}府^ふ公^{こう}を^を酒^{さけ}を^を
年^{ねん}に^に時^{とき}より^{より}終^{しゆう}を^を度^ども^もか
ふ^ふ酒^{さけ}を^をを^をる^るを^を 今^{こん}秋^{あき}
い^いを^を酒^{さけ}を^を 百^{ひやく}を^を
け^けを^を中^{ちゆう}を^を入^いく^く隠^{いん}を^を
れ^れあ^あの^の酒^{さけ}を^を 雜^ざを^を
有^あが 内^{ない}府^ふ公^{こう}を^を酒^{さけ}を^を
り^り長^{ちやう}を^を ち^ちと^とを^を 子^こを^を

しきろく南^{なん}時^じ日本^{にっぽん}は名^な將^{しょう}也
りしを^を誰^{たれ}人^{ひと}やんとのりなり
しが^がりづきも定^{さだ}めて
上^{かみ}様の^{よう}御^ご事^じぬるべしとな^{なり}
しは^は返^へ言^{ごん}と誰^{たれ}人^{ひと}ともや
む^むあうり再^{さい}之^{これ}の^{この}以^も爲^{ため}ぬ故^{ゆへ}
天^{てん}海^{かい}傍^{はう}正^{せい}を^を出^でらる^るく^く御^ご年^{ねん}
を^をとや^{とや}以^も智^ち謀^{ぼう}と^とりし

陣^{じん}く^く雲^{くも}東^{とう}八^{はち}ヶ^が西^{せい}の大^{だい}胆^{たん}主^{しゅ}と^とれ
ば^ば内^{うち}府^ふ公^{こう}と^とお^おし
南^{なん}と^と一^{いち}切^{きつ}是^{これ}を
とや^{とや}し^しら^らる^るふ^ふ産^{うぶ}中^{ちゅう}陣^{じん}
む^むあうり^し
りて^{りて}和^わそ^そ無^むぶ^ぶ人^{ひと}ち^ちう^うと
中^{ちゅう}し^しらん^{らん}を^を内^{うち}府^ふ公^{こう}作^{さく}
せ^せら^らる^るい^いや^やと^とる^るた^たり^りら^らる^るべ

加藤肥後守も當時無双の良將
ありて
家康おろ
及ぶ所も何れ武勇の志津ケ
嶽よりそぞろに朝鮮軍の時
七ヶ年在陣して大敵をも
けその武烈働きのむく
天神のごとくその人信有
く忠烈なる將るればけ

家康あんどが及ぶ處も人
何れに勝れたるもは
てやうに十三歳あり
家康よりいふ
年の方り一あり信く
の清正なるたが一年忽の
ろろあつて万の
く大事ともなへ一

他人の誇むる調略を幸せ
一味同んして後事を所と害
まれば矢あり左根のせり大
將たる人々をくそ身代
ちりそ難のたふしそ後援せむ
一筆多しゆつて引退せしめ下れ
根子と見張ひし時節と考
う矢のころけところれ

急量あつて中へ

家康如妻が抑うぶをよ人
やとと流し解きし物
語り平つと流し解きし物
新あつたのく退あつた
うの度既も語りしその羽
目己の刻り
大坂を所を救ふれ中將度

内府公三

へも御對めんありさうある
大坂のさうめんくいの何
も御見送り此堂とやあげ
朕も 御進發あり
その衆も伏見の城も 御止
ありまふお度清正を立廻り
うら高井授授と唱んで
内府公の御振子と召ね

利して替りうら車あり
また河内の人々のせいの名將良
將の評判ありく南村日本無
双の良將といふもか度清正
内府公も及ませぬさうあり
れり唱ふ有りと委しくあり
くれは清正のさうめん大ま
ねるべき事あり

徳川殿も老幼の名おしして
古太閤ごうも持あぐも終り
やどの人あり志うんば衆今
日本必中れ徳人千嘲けり笑
りうとそもさうも苦
うんば
人乃稱美り終るこそおま
あんとこの時より心中千を
徳川殿一

年忽れあきやうにおうあ
みうらわ地良の事とおのひ
出さきうくぬり葉乃如く
石田三成逆心誠あひうらう
大谷刑部お捕とおううひ
中お秀頼今判物をうつて
徳大名誠候候しうの時
清正も既千却主の山うあ

同んまふのころよりその
授授が物語りと名ひ高うく
りやくこんの年忽のり
徳川殿の御有一の松の時れ
るるゝんとそそ中本^{ちんぽん}
托^{たく}授^{じゆ}の態^{たい}本^{ほん}へ^へ海^{かい}陣^{じん}して^{して}室^{むろ}ヶ
原^{はら}陣^{じん}より^{より}海^{かい}敵^{てき}討^{うち}や^やさ^さる^る留^る
時^{とき}足^{あし}金^{かね}せ^せける^が小^こ細^こり^り長^{なが}と^とそ

日頃不和るれむこの時を幸ひ
とやあひのころ同列字太の城
を攻^くる^る一^一鴻^{こう}津^{しん}立^た屯^{とん}等^らや
戦^{いくさ}ひ^ひ軍^{ぐん}功^{こう}ある^るに^に依^よく^く小^こ細^こが
初^{はつ}願^{がん}を^をば^ばその^{その}後^{のち}より^{より}さ^さる^る
この時^{とき}関^{かん}ヶ^ヶ原^{はら}は^は出^で張^{ちやう}一^一海^{かい}敵^{てき}
とお^おぬ^ぬら^らふ^ふお^おぬ^ぬく^くい^いあ^あつ^つた^たま^ま
六^むヶ^ヶ一^一う^うる^るま^まり

東照文の御謀略として清正
 毛功有て 御當家の一物
 とるぬりけり 池清

関ヶ原軍記初編巻の市二 池清

徳川十五代記 編

春雨文庫

編 敵 討 毎野權三代記全部十五冊

近世記聞

編 明治太平記 全

開明 小説 鳥追於松實録 五十 大尾

肥長 鹿見嶋士傳

編

珍説 夜嵐實記 全

近世 小倉青木實記

全部 近日出来

近世 松村春輔著 櫻田實録 全

近世 徳川家の旗本青木實太郎小倉海兵衛長吉昌殿の春情と事奇
 暴借強談の悪事と日本の奥方艱難心苦と記し實録の如く綴りたれ近世の珍書なり

書物 繪入 貸本所

東京牛込細工町 誠光堂 池田屋清吉謹白

